

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和4年 5月 3日

事業所名 かのん

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	80%	20%	活動スペースを活動に合わせて区切るなどの工夫をして、活動のスペースがとれるように工夫しています。学習室、落ち着ける個室を確保しています。	利用人数が多い時はスペースが狭く感じられることがあるため、そのような時は公園など外の施設を利用するなど、活動に工夫をしています。
	2	職員の配置数は適切である	80%	20%		利用児童の人数や特性などに合わせて、利用児童一人一人に関わることができるように、職員配置を工夫していくようにします。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	玄関はスロープになっており、特に段差のないスペースになっています。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	80%	20%	職員で話し合いをするようにしています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	アンケートを年に1回実施しています。また、普段の送迎時などの話の中で、聞き取りを実施するようにしています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	年に1回実施し、結果をホームページで公開しています。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	40%	60%		現在、第三者による外部評価は受けておりません。今後は業務改善を図るために外部評価を検討し進めていきたいと考えています。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	内部の研修に参加し自己研鑽に努めています。	コロナウイルスのため、外部研修が減っていたり、外部研修に参加することが難しかったりしています。オンラインでの参加や内部研修の充実などを検討していきます。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	利用児童や保護者からニーズを聞き取って計画を作成しています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	バイランドや個別支援計画システムのアセスメント表を使用しています。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	職員で話し合いながらプログラムを考え実施しています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	80%	20%	利用児童からニーズを聞き取ったり汲み取ったりして、新たな活動を取り入れるようにしています。	特性などで固定化しやすい児童もいるため、ニーズを把握し、活動を広げていけるように考えていきます。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	80%	20%	休日や長期休暇などには公園に行ったり外出プログラムを実施したりクッキングをしたり、平日とは異なるプログラムを計画実施するようにしています。	今後、もっと頻度を増やして、利用児童が楽しめるようにしていきます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	個々のニーズや特性に合わせて、個別で関わる時間と集団で活動する時間を組み合わせて考えています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	80%	20%	毎日ミーティングを実施しています。	個人で話をするところがあるが、全員に周知できていないこともあるため、周知の方法を検討していきます。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	80%	20%	時間があれば、その日にあったことの報告や引継ぎなどを伝えていきます。	送迎等で時間が取れないこともあるため、翌日などに時間を作って話をし、共有するようにしていきます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	ケース記録を毎日記入しています。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	6ヶ月に一度は保護者や関係機関から聞き取りを行い見直しを実施しています。	コロナウイルスのため、対面での面談が難しい場合は、電話やオンラインでの対応を実施していきます。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	100%	0%	利用児童一人一人に合わせて様々な活動を組み合わせ工夫をしています。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児童発達支援管理責任者は必ず参加するようにしています。また、必要に応じて子どもとの関わりが深い職員を同席させることもあります。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	送迎時に様子を聞き取ったり、メールや書面での情報共有、保護者を通じての行事予定の把握を行っています。また、必要であれば連携をするようにしています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	100%		医療的ケアが必要な児童の受け入れを行っていません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0%	100%		かのもでは対象の児童がいませんが、必要があれば関係機関と情報共有を行うように努めています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0%	100%		かのもでは対象の児童がいませんが、必要があれば関係機関と情報共有を行うように努めています。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	80%	20%	児童発達支援センターと連携し、必要に応じて情報共有を行っています。	今後、より連携を深め、積極的な研修参加を行っていきます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	80%	20%	公園で地域の子どもの関わる機会を持っています。一緒に遊んだり、教え合ったりして良好な関係を築くことができています。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	80%	20%	毎回積極的に参加しています。他事業所との交流や意見交換を目的に今後も参加していきます。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳での様子の共有をしています。また、送迎時や電話でやりとりをするようにしています。様子の共有やニーズの把握、家庭での困りごとなど話をしています。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	40%	60%		プログラムの実施はしていませんが、保護者と連絡をとりながら、家庭での困りごとなどの相談・助言は実施しています。今後、ペアレントトレーニングなどのプログラムの実施も検討していきます。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	利用契約時に、手引きや契約書に沿って説明を行っています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	保護者と送迎時や電話で話をする機会を設けるようにしています。相談や助言を受けた際は迅速に職員で話をして助言・支援を実施しています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	40%	60%		コロナウィルスの影響で保護者会の実施が出来ませんでした。保護者支援や保護者同士の交流や連携のサポートは今後も実施していきたいと考えています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	苦情解決制度の下に委員会を設置し、ご意見があった場合に迅速に対応するよう心がけています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	定期的にポポロ通信を発行し、活動内容を発信しています。また、ホームページのブログを活用して、日々の活動をお伝えしています。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	個人情報の取り扱いについては厳重に管理し、外部での使用については個人と特定されないような形で、保護者の方に同意を得てから使用しています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	児童や保護者一人一人に合わせて、わかりやすい方法でコミュニケーションをしています。児童には特性に合わせて視覚的なツールなども使用しています。また、保護者とはメールの活用もしています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	40%	60%		本来は年に1回は法人の祭りを通じて地域住民の方との交流を行っていましたが、コロナウィルスの影響で実施が出来ません。実施が出来る状況になれば再開したいと考えています。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	各マニュアルを策定して職員内で周知しています。	保護者への周知を検討していきます。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	80%	20%	定期的に避難訓練を実施しています。	訓練の頻度を増やし、特に職員間での防災意識を高めていけるように検討しています。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	60%	40%	内部研修を実施しています。	虐待防止委員会を整備して、人権研修や虐待研修を実施していきます。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	80%	20%	支援計画に緊急時・やむを得ない場合について記載し、保護者の方に説明を行って了解をいただいています。そのような状況が起こった場合には保護者の方に連絡と説明を行うようにしています。	
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	医師の指示書を頂き、指示に基づいた対応をしています。	
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	80%	20%	委員会を設置し取り組んでいます。ヒヤリハットやアクシデントが起こった場合には報告書を作成し、対策案まで情報共有できるようにしています。	